

2月5日(月)

一 致

聖書朗読 ヨハネ 17:20～23

一つのからだには多くの器官があつて、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあつて一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。 ローマ 12:4～5

飛行機の自由席の機内でフライトアテンダントがこう言います。「皆さん、お隣の席と一緒に座りたい方をお選びください」。

私は教会に集うとき、特に他の集会を訪問した時には、出来るだけ多くの人を見渡すようにしています。新来者が居る時には特に、この方も共に天国で会うのだなと思います。私たちには皆、天国という希望があります。私たちのすべてにそうした希望があるので、教会に集う方々が皆、天国へ行くのだと意識的に考えるようになると思いいます。

私たちには、「愛してはいるけれども好きではない人」がいると思いますが、そうした人々も共に天国へ行くのです。「しきたり」などについて、考え方が異なるために他の集会へ移って行った人たちも共に天国で会います。少なくとも私が天に行かれるのであれば、彼らも行かれるはずです。

イエス様が大切にされるのは、ご聖霊の導きにより、一つとなり互いの違いを超えて共に働き、『あなたがたも互いに愛し合いなさい。』(ヨハネ13:34)ということです。愛を「結びの帯として完全なもの」(コロサイ3:12～14)としていきましょう。

今度礼拝に集ったとき、周りを見渡してみてください。永遠に共に過ごす兄弟姉妹を見渡してみてください。完全な愛を持って彼らと一つとなる事を目指してください。これこそ主が望まれることです。永遠というのは長い旅路です。共に歩む人を選んでみてください。

讃美歌 401

祈り 親愛なる主よ。一致の霊を与え、主が父と一つであるように、私たちもあなた様と一つとなれるようにしてください。どうか、愛と赦しを私たちに理解させてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ウィリアム・T・マックガン
オレゴン州 フィロマス

今日の力

2018年2月5日～2月11日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月6日(火)

家族が集まるとき

聖書朗読 ヨハネ 17:20～26

御子が多く兄弟たちの中で長子となられるためです。 ローマ 8:29

家族の集まりの場というのは、冗談やホームコメディ、映画などでよく取り上げられるものではないでしょうか。おかしい親戚の笑い話、サンクスギビングの食卓での言い争い、あるいは、車での大変な長距離旅行といったことは、テレビや映画の世界だけでなく、私たちも日常経験していることでしょう。

けれども、こうして家族が集まることで、互いの関係が修復できないほどこじれてしまうこともあるかと思いますが、それでもなお私たちが集まろうとするのは何故でしょう。共に食事をしたり、パーティをしたりして集まろうとする背景に、私たちを駆り立てる何かがあるに違いありません。それは、愛ではないでしょうか。家族は互いの欠点を大目に見てくれますが、それは互いに愛があるからだと思います。愛は、互いの欠点をかき消してしまうほどの喜びをもたらすからです。

神は、私たち血のつながった家族のこじれた関係をご覧になったら、その子どもたちをどう思われるでしょう。『義人はいない。ひとりもない。』(ローマ3:10)とあります。イエス様は、ご自分の口から父に、『あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。』(ヨハネ17:24)とおっしゃっておられます。何と有難いおことばでしょう。

私たちは、神の赦しのゆえに、霊の完全な一致をもって主の食卓に与ることができます。私たちの父がどれほどの代価を払ってくださったかを、決して忘れてはなりません。

讃美歌 402

祈り 親愛なるお父様。私たちに一致の霊をお与えください。それにより、私たちが互いの愛と、共にある喜びを世に示す者とさせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ナンシー・ベーカー

テキサス州 アビリン

2月7日(水)

疑いの思い

聖書朗読 ヨハネ 20:1～18

そこでこのふたりも、残りの人たちのところへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。 マルコ 16:13

先日、小グループの集会で無神論がテーマとなったのですが、その集會に集った人の中に、人には実際には信じられないという疑いの思いがあると言う方々がいました。「私は信じているけど、何故あなたは信じないの？」このような問いは、自分が信ずる側に立っている時には、容易にできるものでしょう。

主の復活の朝、その復活を信じられない人が幾人もいましたが、中でもトマスはよく知られた人物でしょう。彼は『私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。』(ヨハネ20:25)と言っています。トマスは、物理的証拠を求めていました。というのも、彼の考えでは、救い主は死んでおられないと思っていたからです。

イエス様の墓を見に行つたあの女性たちも、墓が空になっていること、そして、救い主がその外に立っておられることなど全く予期しておりませんでした。マリヤは「私の主をどこに置かれたのですか」とイエス様に尋ねています。私たちが実際には信じていないとき、このようなことが起こります。主をまっすぐに見ていながら、主であると気付かないことがあるのです。

疑いの思いから信仰(信ずる)に至る過程は人それぞれです。マリヤは自分の名を呼ばれてようやくイエス様に気が付きました。トマスは、信ずるために、イエス様の刺された脇腹に触れることが必要でした。ペテロは、イエス様が舟の方へやって来られ、しかも、水の上を歩いて来られるのを見て完全に受け入れました。あなたが主を信ずるに至る過程はどの様なものでしょう。

讃美歌 243

祈り 親愛なる父よ。あなた様が私たちとともにいてくださり、私たちの疑いの思いを消し去るのにそれぞれ必要な形で、あなた様ご自身を私たちに現して下さることを感謝します。私たちの前に、信仰ある人々の証をお示し下さり感謝します。あなた様をまだ信じていない人々に伝えて行く時、どうか私たちに忍耐と憐れみの心をお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ブルース・W・ラグー

カリフォルニア州 マーセッド

2月8日（木）

主の払われた代価

聖書朗読 ローマ 8：28～39

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ 3：16

ある土曜日の朝、私は主人とゆっくり朝食を摂りに出かけました。食事をしたお店で支払いをしようとウェイターに声を掛けると、食事代の支払いは既に済んでいるとの返事が返ってきました。店内を見渡してみましたが、顔見知りはいません。この「ミステリアスな人物」は、私たちの食事代を払う理由などなかったはずです。どうしてその方は、そのような事をしてくださったのでしょうか。私たちはその方の為に何もしていないのです。

この出来事は、ある事、あるいは、ある人物を彷彿とさせるものではないでしょうか。それは私たちの主です。主は、私たちのいのちの代価を支払って下さる必要はなかったはずですし、私たちはそれに値する事は何もしていないのです。それにも関わらず、主は代価を払ってくださいました。それは何故でしょう。

ヨハネは、この問いに対する答えを記しています。皆さんはどう思われますか。神は、私たちのために、御子のおいのちさえお与えくださるほどなのですから、私たちを愛し続けられないことがあるのでしょうか。ヨハネ15：13には、『人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』とあります。主が私たちにお命じになっておられることは、主が私たちを愛されたように、私たちも互いに愛し合いなさいということです。

讃美歌 332

祈り 親愛なる主よ。あなた様がおいのちを捧げ、私があなた様の御愛に値する者でないにもかかわらず、愛し続けてくださることを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ガイネル・トーマス

ニューメキシコ州 ポータレス

2月9日（金）

苦しみと希望

聖書朗読 ローマ 8：35～39

心に不安のある人は沈み、親切なことばは人を喜ばす。 箴言 12：25

私たちは、日々様々な感情や気持ちが沸き起こってくるものです。苦しいという感情がありますが、その中でも最も辛いのは、絶望感、望みを失う事ではないでしょうか。この感情について、私たちは、ヨセフの姿勢や態度から大切な教訓を学ぶことができます（創世37章～50章）。ヨセフは、自分の兄弟らによって奴隷として売られ、性的に誘惑をしたという偽りの証言により訴えられ投獄されました。このような時、ヨセフがどれ程の苦痛を味わっていたか想像できますか。けれども彼は、そのような中にあっても、神にある希望を捨てませんでした。

私たちが耐え難いほど苦しい感情や気持ちに苛まれ、いかなる状況にあっても、神の私たちに対するご愛とみことばは決して変わることがありません。（マラキ3：6）

苦難によって、私たちは、神にある希望を捨てさせようとする試みに遭うかもしれません。けれども、神は、あえて様々な問題を取り除くことをなさらなかったとしても、私たちがそうした困難に耐え得る強さと能力を授けてくださいます（IIコリント12：7～10）。

ヘブル13：6には、こうあります。『そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができません。』』

ヨセフは、結果がどうあろうとも、神への信仰と希望を持ち続けたのです。

これこそ私たちの持つべき信仰であると思います。

讃美歌 286

祈り 天のお父様。あなた様の御愛を感謝します。自分の感情や気持ちをコントロールできるよう助け、勇気をお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロン・グロス

コロラド州 プエブロ

2月10日（土）

試 練 の 時 も

聖書朗読 I コリント 10：6～13

神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。
I コリント 10：13

私たちの社会では、「お元気ですか」というのが、聞かなくてはいけない決まり文句のようになっていました。けれどもそれに対して、「元気ですよ」ということば以外の長々とした返事を、私たちは期待してはいません。私は化学療法を受けた時期があり、その時はさすがに、誰かに「お元気ですか」と聞かれると、ただ「元気ですよ」というお決まりのことばを返すのは辛かったのですが、長々とした私の返事を相手は求めてはいないだろうと思い、「何とかやっています」とだけ答えていたものです。

私たちは、根気や忍耐といった性格特性をあまり重視しない傾向にありますが、聖書では重要だとされています。今日の聖書箇所は、私たちに、試練に耐えられる事を確信させてくださるものであり、II コリント1：6には、耐え忍ぶとき、慰めを得るとあります。

けれども、耐え忍ぶことそのものは、最終的な目的ではなく、聖なる性質を身に付けるためのプロセスの一部です。ローマ5：3～4には、こうあります。『患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。』勿論私たちは、いつも「元気」でありたいと思うものですが、患難に耐えることも大切にしましょう。

霊的に我慢強くあれという呼びかけがある。踏ん張らなくていい、何もしなくていいという呼びかけがある。しかし、神は決して打ち負かされることはないという確信をもって、慎重に事をなしなさい。（オズワルド・チェンバース）

讃美歌 364

祈 り 親愛なる主よ。私たちが元気でないとき、どうか我慢強さを与え私たちを強め、あなた様にある希望が常にあることを覚えて、私たちが霊的に成長できるようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州 マリブ

2月11日（日）

そ れ ぞ れ の 働 き

聖書朗読 I コリント 12：12～25

からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。

I コリント 12：14

「蜂のように忙しい」。誰でもこの表現を知っているでしょう。この表現は、他の人が懸命に働くとき、より生産的な働きが出来るよう励ますのに使われます。この蜂について驚くことがありました。それは、働き蜂はその一生分の花の蜜を集めるそうですが、その量は、はちみつのたったテーブルスプーン半分程だそうです。働き蜂の一生は、私たちからすると短いもので、蜜を集めてはちみつを作る活動期間は6か月ではありますが、それほど僅かなはちみつであっても、彼らにとってはその収集作業はどれほどの重労働かと思います。

けれども、「人手が多ければ仕事は軽くなる」ものです。働き蜂一匹では、わずかなはちみつしか作れませんが、巣箱で他の働き蜂らとともに働けば、多く作ることができます。実際、アメリカの養蜂家らは年間200万ポンドものはちみつを生産しています。

働き蜂は私たちに、取るに足りない小さな事と思われるような事でも、主の身体の一部として喜んで働きなさいと言うことを教えてくれているように思います。『しかし神は、劣ったところをさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです。』（I コリント12；24～25）とあるように、私たちの献身的な姿勢、そして、互いの愛が重要なのです。

讃美歌 419

祈 り 親愛なる神よ。私たちをあなた様の子としてくださり天の御国に私たちを置いてくださることを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

デビー・ハリソン
テキサス州 リビングストン